

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 名古屋市立八熊小学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒454-0013

愛知県名古屋市中川区八熊1-8-30

E-mail yaguma-e@nagoya-c.ed.jp

Website http://www.yaguma-e.nagoya-c.ed.jp/

幼児児童生徒数 男子 168 名 女子 135 名 合計 303 名

幼児・児童・生徒の年齢 7 歳～ 12 歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、「身近につながる、未来へつながる課題解決学習」をテーマとして、ESDを「身近な環境から見つけた課題を、体験を通して解決することで、未来の地域環境へのつながりを見出すことができるような学習」と捉え、実践を進めている。このESDの実践を通して「身近な環境への意識を高め、人とのつながりを大切にしながら、自ら課題を見付け、解決する」力の育成を目標とした。

具体的には、「かけがえのない自他の命」「人とのつながり」を柱に、①身近な環境に係わる学習、②生物多様性に係わる学習、③福祉・人権に係わる学習、④人とのつながりを大切にする活動を行った。

### ① 身近な環境に係わる学習

地域を流れる「堀川」を教材として取り組んだ。子どもたちは、堀川に関わりながら、堀川と生き物、校庭と堀川の生き物、堀川の上下流域などについて体験を通して学んだ。特に3年生は、堀川の生物観察を行うとともに、上流の黒川で生物採集を行った。堀川(汽水)と黒川(淡水)の違いを肌で感じ取ることができた。そして、「アクアトトぎふ」も訪れ、川の生物をじっくりと観察したり、長良川や木曾川の生物と比較したりした。

これらの体験を通して、多くの児童が課題を見付け、進んで解決することができた。

## ② 生物多様性に係わる学習

地元の名古屋市中央卸売市場の協力で、全校児童が活きた魚に触れる体験を行った。多様な魚介類に触れ、種の多様性を感じることができた。また5年生は、水産資源に関する講演を聞くことで、自分と生物とのつながりについて学ぶことができた。この体験を通して、「水を大切にしたい」「海や川の豊かさを守りたい」という意識を高めることができた。

## ③ 福祉・人権に係わる学習

4年生は、名古屋市中川区社会福祉協議会の協力で、視覚障害のある方を講師に招き、日頃の生活や視覚障害のある方への接し方についてお話ししていただいた。また、ガイドヘルプ体験や日常生活の様々な体験も行い、困難さや支援方法について学ぶことができた。さらに、4・6年生は、名古屋人権啓発センターに出掛け、多様な障害者の体験を行った。これらの体験を通して、児童が見付けた課題を解決するとともに、「誰もが安心して生活できる社会にしたい」という意識を高めることができた。

## ④ 人とのつながりを大切にする活動

本校では、異年齢交流に力を入れている。1学期は、6年と1年、5年と3年、4年と2年という「ペア学年」を設定し、主に1対1または1対2のバディでの活動をする中で、異年齢の関係づくりを行った。2学期からはそのバディの関係を維持したまま、全学年が入った「縦割り班」を編成し、遊びや学校行事を通して人間関係づくりを行った。また、地域の方から地元の祭りの歴史についてお話ししていただいたり、伝承遊びを教えていただいたりするなど、地域の方とのつながりも感じられる活動も行ってきた。これらの活動によって、今後の地域を支える人とのつながりを少しずつ形成しつつある。



① の写真(黒川での生物採集の様子)



② の写真(活魚に触れ説明を聞く様子)



③ の写真(ガイドヘルプ体験の様子)



④ の写真(縦割り遠足で活動する様子)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input checked="" type="checkbox"/> 8. その他(課題を見付け解決する力)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

特になし
------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、ESDを核とした課題解決型の学習過程を重視した教育課程を編成している。ユネスコスクール加盟時は、環境、エネルギーの領域に限定し、理科・生活科の学習に関連させて実践を行っていたが、毎年成果と課題をふまえ、指導内容を少しずつ変えている。児童の実態や保護者からの要望、教師の専門性を考慮し、学校に求められる「〇〇教育」も整理しながら教育課程を加除修正している。校内での研修を行い、指導方法について共通理解を図るとともに、積極的に地元の方や専門性のある方を講師に招き、適切に指導できるようにしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

日頃から課題解決型の学習過程を展開するため、研修や授業公開を行っている。授業公開後には、授業検討会を行い、今後の指導に向けて共通理解を図ったり、情報交換したりしている。継続して活動に取り組めるようにするために、児童や教職員に過剰な負担がかからないようにすることが大切であると考え、昨年度の活動をベースに児童の実態と教師の専門性をふまえて修正しながら活動するように努めている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

毎年、7月と1月の2回、児童と保護者、教職員を対象に学校での活動についての評価を行っている。7月の結果は2学期からの活動に、1月の結果は次年度の活動にそれぞれ生かせるようにしている。またそれぞれの結果を学校関係者評価委員会で公表して意見をいただき、それも活動に生かしている。主な成果としては、社会に出た時に役立つ力を着実に身に付けつつあることや、ニーズに合わせて多様な活動を展開していることが挙げられる。今後教職員が入れ替わる中で、どう継続していくかが課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

活動の様子は、その都度、学校だより・学年だよりに掲載し、保護者に伝えている。またそれを学校ホームページでも公開し、広く発信している。また、「FMあいち」の取材を受け、地域の情報誌『エコメンド』にESDの取り組みが掲載された。学校の地域環境への取り組みを評価していただき、今後の継続した取り組みを期待されている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

ESDコンソーシアム愛知の代表機関である中部大学の客員教授に来校していただき、本校の取り組み状況を説明するとともに、活きた魚に触れる体験の様子を参観していただいた。これまでの取り組みに対する評価をいただくとともに、今後の活動についての助言をいただくことができた。また、体験活動を進めるにあたって、「堀川まちづくりの会」「名古屋市中川区社会福祉協議会」「名古屋市中央卸売市場」などの協力によって行うことができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

愛知県ユネスコスクール指導者研修会に参加し、文部科学省の田村氏による講演やユネスコスクール実践校の発表を聞いた。この研修会に参加したことで、本校の取り組みを継続していくための参考とすることができた。また、今後、交流をしていくことの大切さについても実感した。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクールの活動を継続していることで、課題解決学習が定着してきている。また、課題解決学習を進めるにあたって必要な基礎的な学力を向上させること、話し合いや表現の力を高めることにも力を注ぐことになり、児童に力が身に付きつつある。また、教員の授業力向上にもつながっている。

多様な人とのつながりを通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童も増えてきている。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

平成 29 年度の実践の成果と課題、児童の実態等をふまえながら、活動計画を作成する。大きな変更は行わず、児童や教職員の過度な負担がないように配慮していく。外部の専門家による授業や講演は、児童・保護者・教職員に好評であり、ESDの推進にあたっても効果的であると考えられるため、積極的に活用していく。

今年度は、児童の実態や保護者の要望もあり、国際理解の領域にも取り組んだ。今回は試行としての実施であったため、単発な扱いになってしまったが、他の領域と関連を図ることで、効果的な学習を展開できると考える。国際理解の学習の充実をしていきたい。

さらに、キャリア教育・自殺予防教育・防災教育・消費者教育などの視点からも活動を見直し、活動を推進していきたい。